

1. 開 会 17:30

2. 会長挨拶

小山内会長：

新型コロナウイルスの感染状況について、改善しているとは言えないが比較的落ち着いてきている。しかしながら2週間ほど前からインフルエンザが流行しており、全道で2番目に感染者の多い市町村となっている。この会議においても感染対策に留意しながら進行していきたいと思っているので、よろしくお願いします。

本日の会議は、第9期高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画の検討となっております。前回の会議の際に松田委員を始めとする委員の方々から、働き手が確保することが大切であるという意見がありました。新聞報道にもある通り、富良野市としても人材確保対策として様々な事業を検討しているようですが、その事業をどこまで実行できるかということが大切で、市の人口が増加するように是非とも頑張りたいと思っています。市としても色々と尽力している中で、我々も今日の計画検討について円滑な議事進行をしていけたらと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

3. 議 事

(1) 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための介護保険事業所調査結果報告書

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:40-17:50 (質問、意見なし)

(2) 事業参入意向調査の結果について

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:50-17:55 (質問、意見なし)

(3) 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 (骨子案)

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:55-18:20

(質疑・応答)

草野委員：

前々回の会議において、認知症サポーターの養成支援について、教育機関における福祉教育などの協力体制を構築できないかということをご提案させていただいていたが、このことについて今後見込みがあるのか、計画には個別具体的な事業は盛り込まずにある程度含みを持たせた文言にすることで活動展開しやすいということなのか、そういった部分の見解を聞きたい。

事務局：

地域包括支援センターの運営協議会において、認知症サポーターに関するご提案をいただいたと思うが、ご指摘のとおり計画自体には具体的な事業内容は記載しておらず、

計画に記載している地域包括支援センターの機能強化の部分で、家族介護支援やケアラー支援を重視し、教育機関や障がい者支援団体等の様々な機関と連携を図ることとしている。この中に認知症サポーターの養成も入っていることから今後、関係機関とご提案いただいたことも含めて様々な協議を行い、よりよい事業を企画していきたいと考えている。

草野委員：

昨年度から地域リハビリテーション活動支援事業として、ケアマネジャーが居宅訪問する際に作業療法士や理学療法士が同行して、住宅改修や福祉用具購入等について助言を行うという取り組みが始まったが中々利用実績が上がらない。制度上、ケアマネジャーに同行する形でしか実施できず、回数も同一事業所に対し年間2回までと制約が厳しい。

医療と介護の連携で、退院時のやり取りで住宅改修や福祉用具の購入等に関する助言が完了している場合も多く、地域での介護予防活動等を拡大していく中で、よりリハ専門職が関わりやすい環境づくりのためにも、こういった制度の緩和を検討していただきたい。

事務局：

計画においても地域リハビリテーションの強化について記載したいと考えている。介護予防活動を開催していない地域や事業所に対してのPR活動も強化したいと考えており、事業制度の緩和についても課内で検討していきたいと思う。

草野委員：

積極的に協力していきたいと思っているので、ぜひよろしく願います。

松田委員：

草野委員からの質問に一部重複する部分があると思うが、令和2年度をもって家族介護慰労事業を廃止したとのことだが、家族介護支援やケアラー支援を進めていく中で、社会情勢が変化していることから、こういった事業も再検討をすべきではないか。

また、地域ケアを考えたときに、そういった活動は町内会単位であることが多いと思うが、やはり人同士のつながりが活動の基本となると思う。しかし、私の住んでいる地域でもそうだが、空き家が増え、そういった家を外国人が購入したが実際に居住していないという事が増えており、特に北の峰エリアではより顕著なのではないだろうか。こういった事を考えると、町内会という単位が少し変化してきているとされていて、今後、外国人が空き家を購入するということは増えるのではと思っている。外国人の方々は当然、言語や文化、慣習など日本人と異なる部分が多く、こういったことは地域ケアシステムを構築、強化していく中での課題となるのではと思っている。

今後、富良野に移住してきた外国人の方々が高齢者となった時に備えるためにも各地域にどれだけの空き家があり、外国人の方が購入、移住しているかといった調査を実施し、

町内会でどのような課題が発生しているのか把握する必要があるのではないかと。

小山内会長：

松田委員がおっしゃったことは富良野市民みんなが感じていることだと思う。この課題については市としても調査や対応の検討をお願いしたいと思う。もちろん市だけではなく、我々もきちんと考えていかなければならない問題だと思う。

事務局：

まず、家族介護慰労金について、要介護4または5の認定を受けている被保険者を在宅介護している方のうち、介護保険サービスを1年間利用せず、また90日以上入院、入所をしていない場合において慰労金を支給する制度だが、平成26年度以降該当者がおらず、適切な介護サービスの利用を推進することで介護離職をゼロにする方針であることから、令和2年度の地域ケア推進会議において制度の廃止についてお諮りし、パブリックコメントにおいても反対意見が無かったことから、廃止となった。

町内会に関するご意見について、先日開催された連合町内会長会議でも北の峰町の連合町内会長さんから同様の話があり、隣人の国籍や人柄等が分からないという事態が散見され、町内会の運営に支障が出ているという現状を話されていた。やはり、北の峰エリアは他の地区よりも問題が深刻となっており、建物の所有者と居住者が異なっている場合や、短期間滞在の拠点としているため町内会への加入が難しい場合が散見される状態となっている。保健福祉部とは別の担当部局での対応として、町内会への加入やごみの正しい分別方法などの周知を強化し、地域コミュニティに馴染んでもらう取り組みを推進しなければならないと認識している。もちろん北の峰エリアに限らず、市全体でこの取り組みを進めていかなければならないと思っている。

松田委員：

町内会等に関することは担当部局が異なるとは思いますが、地域ケアシステムの構築、強化に町内会は密接に関係してくることから、保健福祉部もこの問題に無関係ではないと思う。そういったことから、この問題に関する調査等を実施すべきと考えるので、よろしくお願ひしたい。

篠嶋委員：

自分も北の峰町に住んでおり、町内会役員も務めている。そうした中で、今話されていた問題は肌で感じているところであるし、町内会の会議でも同様の話がよく上がっている。松田委員が言うようにこの問題は福祉にも密接に関わってくることから、保健福祉部としても対応をお願いしたい。

それとは別で、介護予防という分野について個人的に興味があり、予防活動によって様々な問題を解決できるのではと考えている。そうした中で、今回の計画案を見ていると新しい事業を始めるというものが見られず、既存の事業や研修を実施するといったことが中心となっているように思う。

個人的な話にはなるが、自分は和太鼓の団体の代表を務めており、佐渡市では和太鼓とエクササイズを掛け合わせたエクサドンという取り組みを、介護予防にも繋がるとして自治体と団体が協力して進めている。富良野市でもこの取り組みを実施できないかと考えており、そういった介護予防に関する取り組みに対し、市としてどのような支援をしていくのか聞きたい。また、富良野市は文化のまちとしても有名で様々な文化活動が盛んだが、現状ではそういった活動と介護予防の取り組みが繋がった事例が無いように思う。スポーツだけではなく、そうした文化活動も認知症予防などに繋がると思うので、既存の事業だけではなく、そういった活動への支援等の新しい事業にも取り組んでみてはどうか。

事務局：

貴重なご意見をいただいた中で、今後、様々な団体と連携を図ることができないか模索していきたいと思う。

(4) 地域密着型サービスの新規事業の承認について

⇒議案に基づき、社会福祉法人富良野あさひ郷の業務執行理事である福永副会長より新規事業に関する説明 18：35－18：45

(質疑・応答)

草野委員

移転予定日が来年の10月1日となっているが、それまでに移転先の建物を完成させるということで良いか。

福永副会長：

その考えで差し支えない。

篠嶋委員

まだ確定ではないが、来年の8月上旬に予定地の隣にある人材開発センターにおいて、障がい者を対象としたキャンプイベントを実施する予定となっている。そのイベントと今回の工事に支障は出ないか。

福永副会長：

イベントや工事に支障が出るかどうかについては、そのイベントにおいてサポートステーションすきっぷの敷地を利用するかどうかだと思う。しかし、そのイベントの規模や実施エリア等の詳細が分からないため、お答えが難しい。

篠嶋委員

来月の中旬ごろにイベントの実行委員会があるので、その実行委員会において本件工事に関する情報を共有しても問題ないか。

福永副会長：

共有に関しては問題ないので、よろしくお願ひしたい。

4. その他

⇒事務局より、次回会議の日程調整について確認 18:45～18:46

小山内会長：

最後になりますが、全体を通してご質問、ご意見はありませんか。

榊竹 氏（オブザーバー・生活支援コーディネーター）：

先ほど草野委員から教育機関との連携に関してご意見があったかと思うが、福祉課における社会福祉協議会への委託事業の中で、「福祉のまちづくり事業」というものがあり、サロンに参加している高齢者を対象に山部小学校、富良野東小学校、富良野小学校の子どもたちとの交流事業を実施している。課は異なるものの、こういった取り組みから認知症への理解向上などの福祉教育に繋げていければ、計画にも反映していくとよりよいものになるのではと共感した。

また、篠嶋委員から話のあった和太鼓による介護予防の取り組みについて、閉会後にお話を詳しく聞かせてもらえればと思う。

小山内会長：

この他にないようでしたら、これをもちまして第3回富良野市地域ケア推進会議を終了いたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございました。

閉 会 18:50